

① 情報に関する課題

①-2 参加に関する課題

情報が「愛」を育む

仕組み
手段・工夫等

住んでいる地域の文化・歴史・自然を理解することで地域愛を育てる

いろいろな分野の団体情報を載せることができる場を設ける(インターネット、施設)など

行政・議会と地区別意見交換会を行う。(要望の会にあらず)

情報共有は、発信側、受信側、両方の意識作りが必要である。

情報の発信
・方法 広報誌
↓
・音声
・徹底

大集団から小集団まで「総ざらえ」する

情報は必要なものが必要なときに入手できれば良い。無造作な放出は困る。

地域情報の吸い上げ
実行、行政～住民か(市民)

小集団へのアンケート調査をする

市全域の「地域便覧」をつくる。(行政区毎)

市民一人一人の存在を認め合う組織

田舎の排他性から来る外から入ってきた人への雰囲気づくり

地区の行事・出役
高齢化・人口減で負担が増える
↓
やれることをやる。

子どもの意見も聞く

参加出来る市民
シニア年代が増加すれば、参加する「ことから」によって参加不能事態を起こす。

幅広い世代の意見
特に20代ぐらいの意見
参加は少ないと思う

固定された地域の人の考え方の押し付け

公民館の位置づけを明確にする

若い人の参加が少ない

会議等に参加するのは、いつも同じ人たちになってしまう。

どんな活動があるのか知るべきが少ない

意見を吸い上げる仕組みから、取り残される世代があるが、この人たちが時代の担い手であるので重要

イベントだけが人寄せなのか日常の中での交流は

市民参加の
・まちづくり
・まちおこし
だれがどのように仕組むか

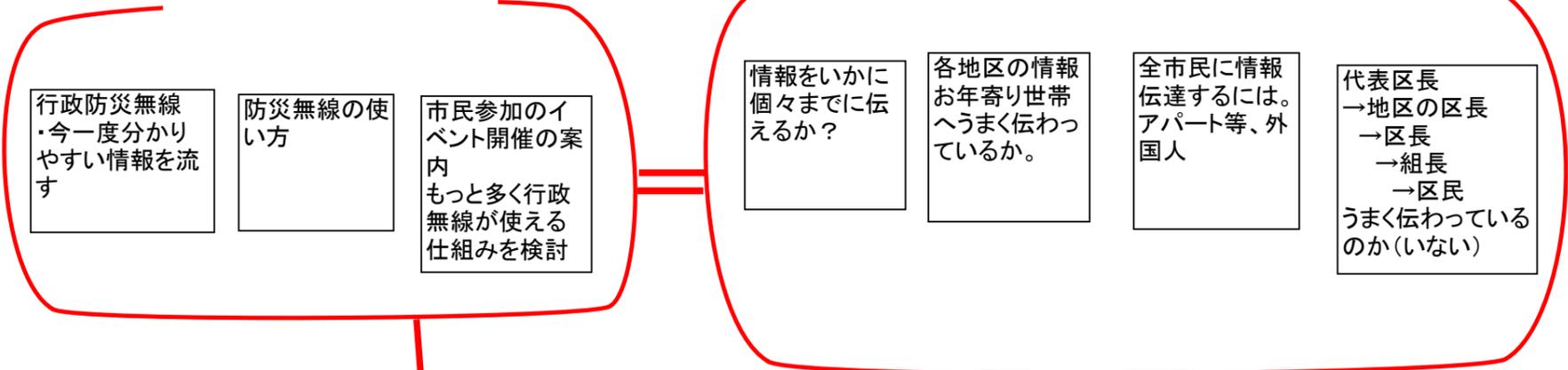
「参加」「情報」
智に誰かが提供するものだという認識では
限度がある。
だから「条例」が必要

意思の「疎通」の根幹は行政区である

高齢者が多く、子どもも少ないのでどうしても地域に活気がない(限界集落に近い)

行政無線

情報の伝達



行政防災無線
・今一度分かり
やすい情報を流
す

防災無線の使
い方

市民参加のイ
ベント開催の案
内
もっと多く行政
無線が使える
仕組みを検討

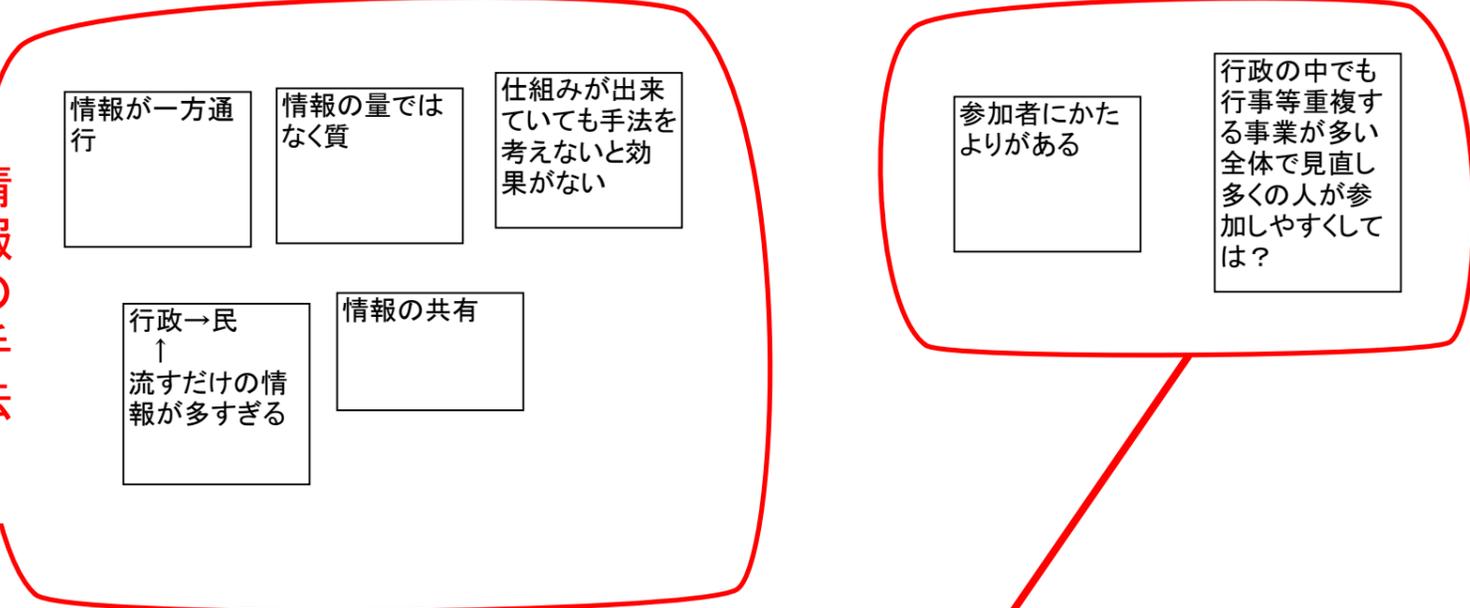
情報をいかに
個々までに伝
えるか？

各地区の情報
お年寄り世帯
へうまく伝わっ
ているか。

全市民に情報
伝達するには。
アパート等、外
国人

代表区長
→地区の区長
→区長
→組長
→区民
うまく伝わって
いるのか(いない)

情報の手法



情報が一方通
行

情報の量では
なく質

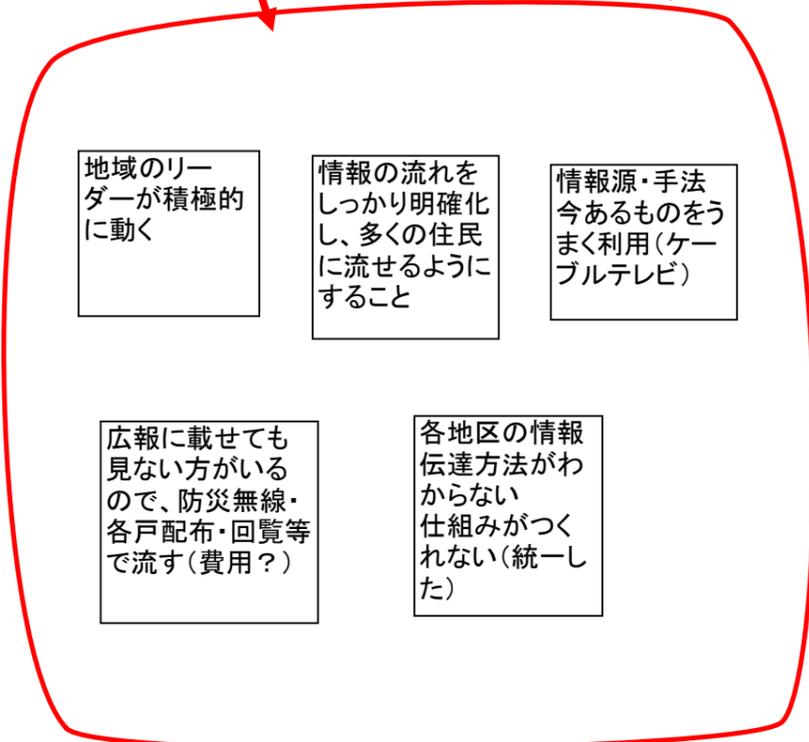
仕組みが出来
ていても手法を
考えないと効
果がない

行政→民
↑
流すだけの情
報が多すぎる

情報の共有

参加者にかた
よりのある

行政の中でも
行事等重複す
る事業が多い
全体で見直し
多くの人参加
しやすくして
は？



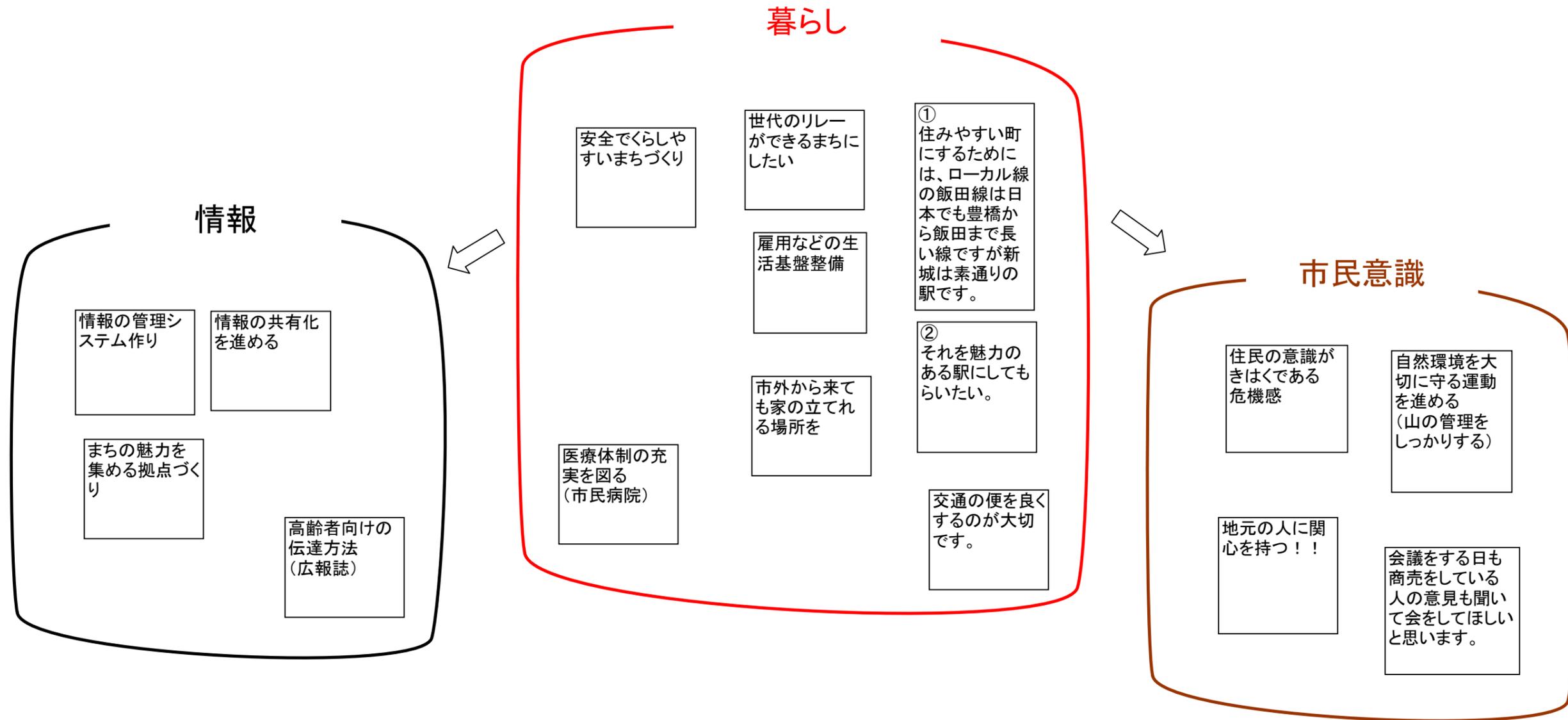
地域のリー
ダーが積極的
に動く

情報の流れを
しっかり明確化
し、多くの住民
に流せるように
すること

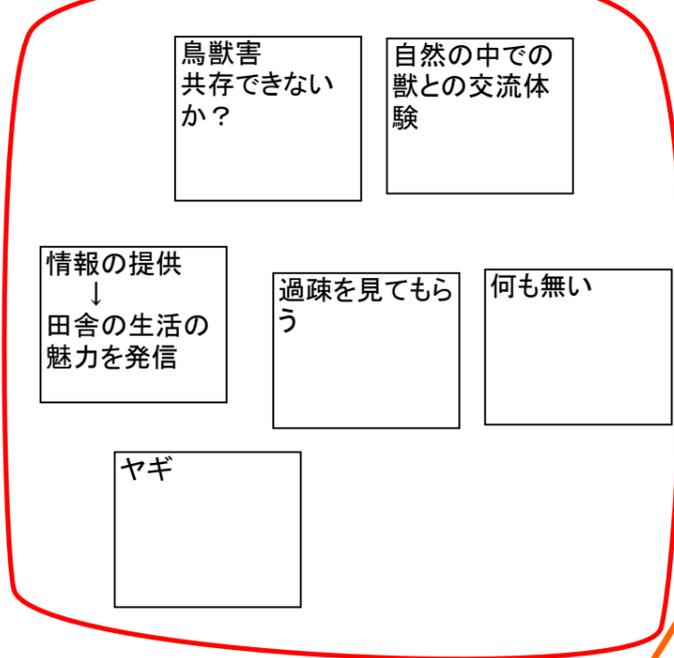
情報源・手法
今あるものをう
まく利用(ケー
ブルテレビ)

広報に載せても
見ない方がいる
ので、防災無線・
各戸配布・回覧等
で流す(費用?)

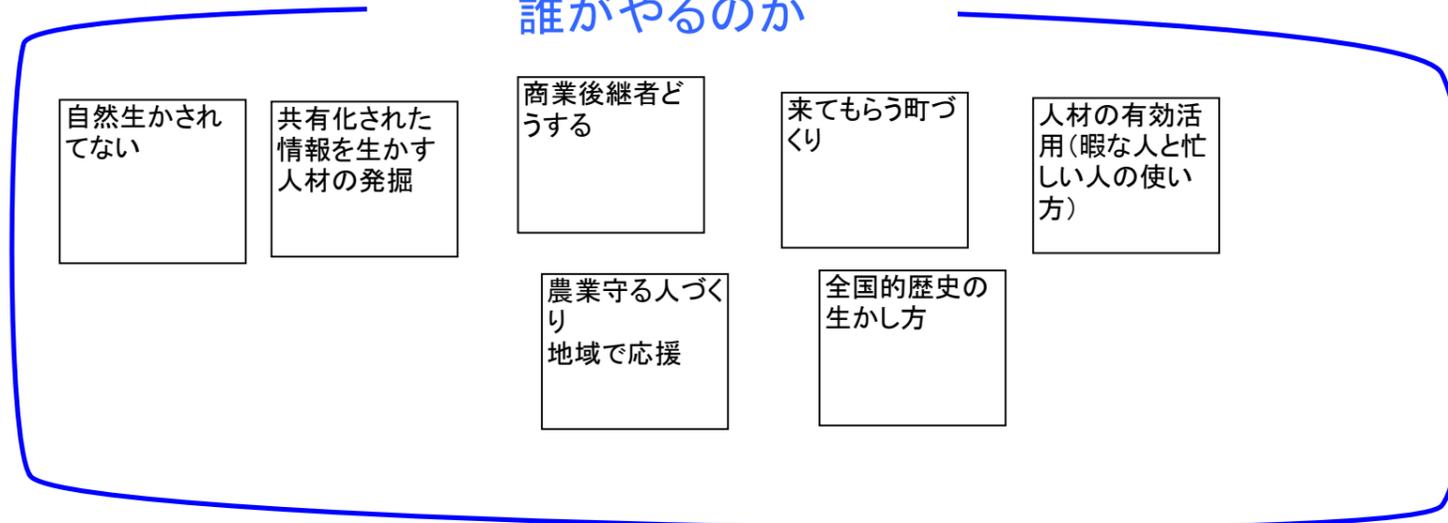
各地区の情報
伝達方法がわ
からない
仕組みがつく
れない(統一し
た)



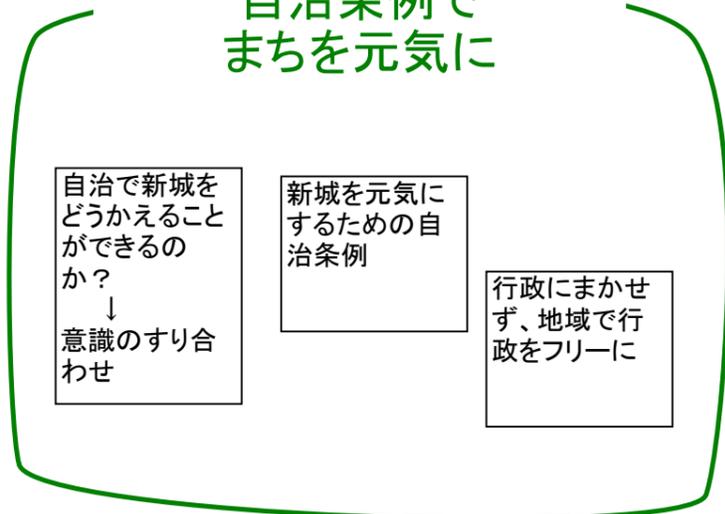
マイナスをプラスに



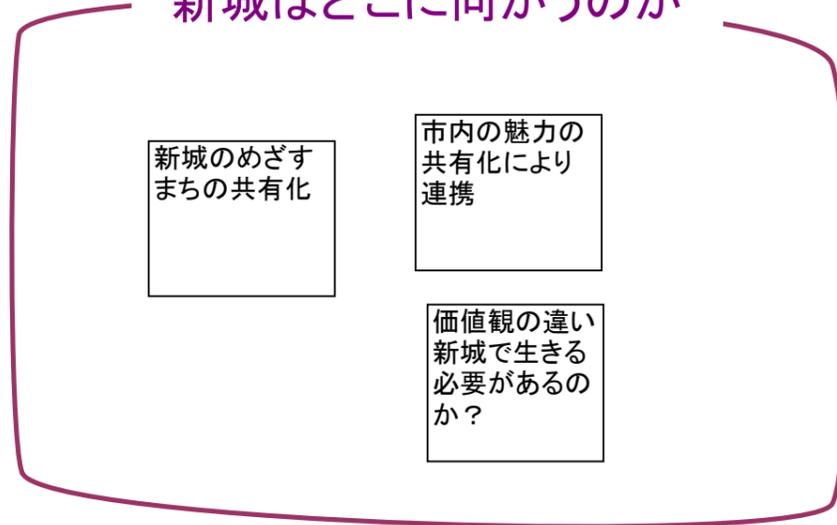
誰がやるのか



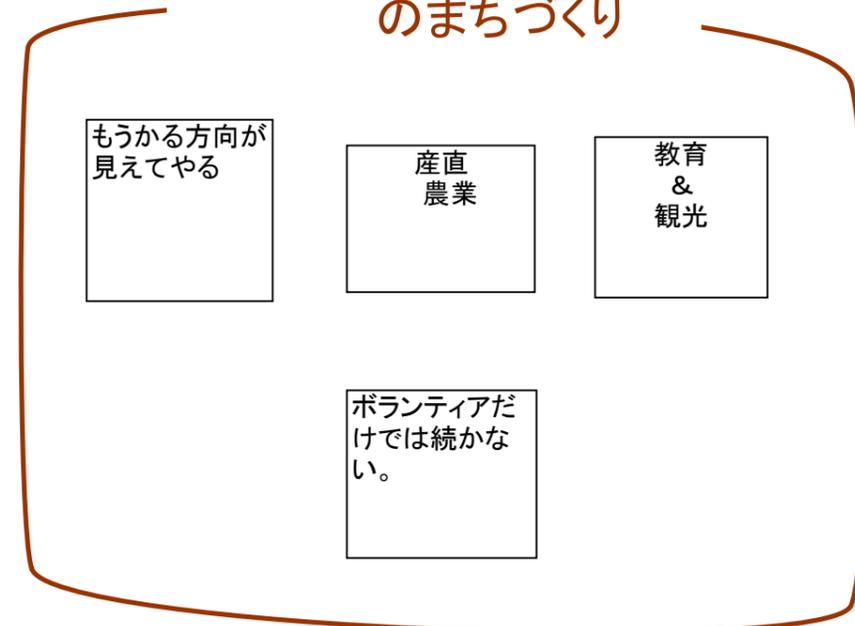
自治条例で まちを元気に



新城はどこに向かうのか



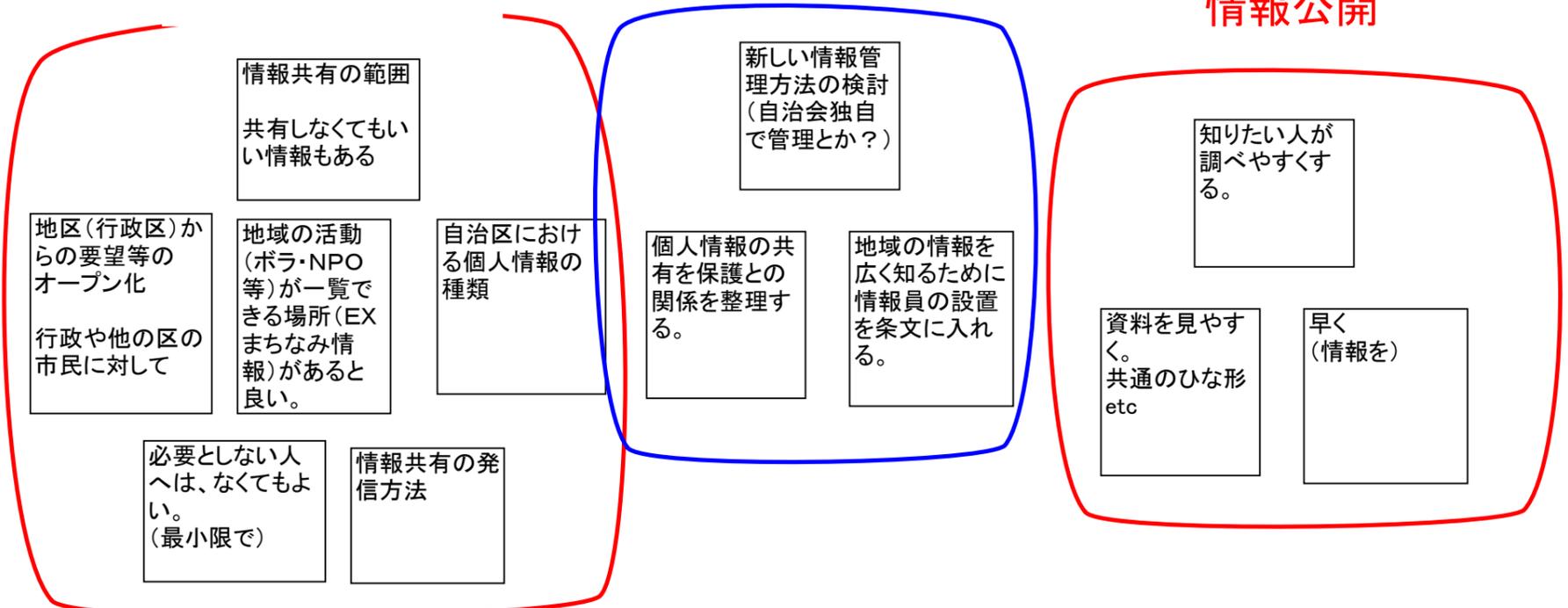
経済あってのまちづくり



管理

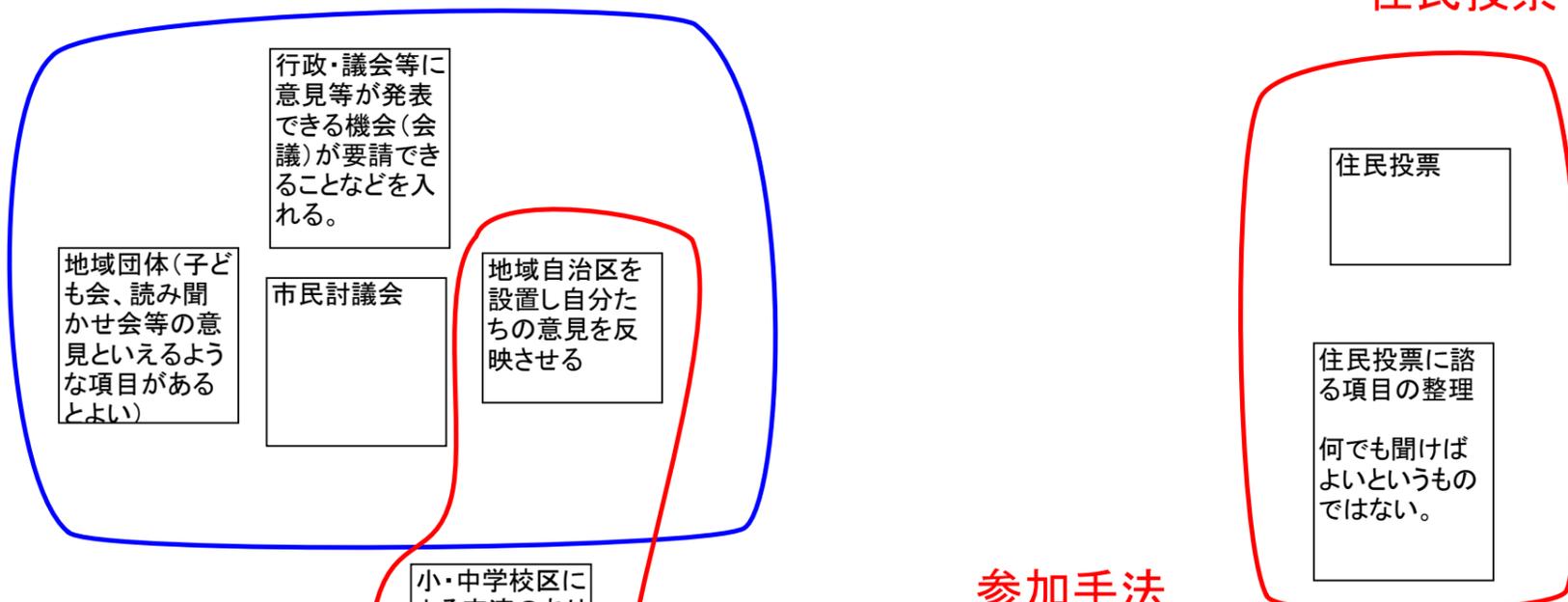
情報共有の範囲

情報公開



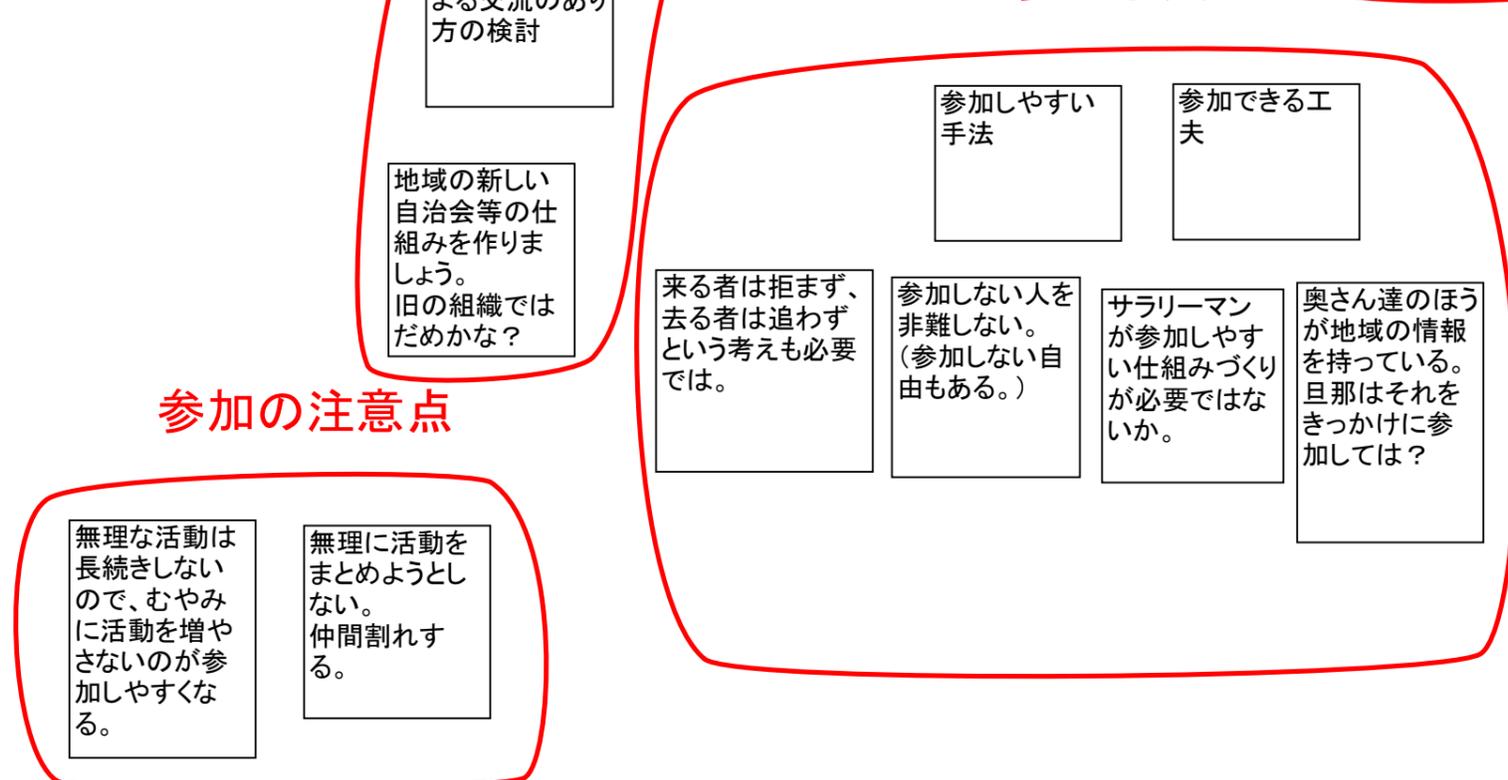
意見反映の新しい方法

住民投票



参加手法

参加の注意点



市民と行政のつながり

情報の集まる 情報を提供 場

どこに何があるのか。
どこに行けばどこに連絡するのか。

1) 情報提供
どこで情報が取れるか
「情報提供の場」
・行政
・団体
・一般、サークル
etc

人はどんな情報を求めているか

情報の場

知りたいことをどこへさがしに行くか？

「情報」が集まる「場」があるか？

地域の情報共有機会

共有

情報の共有
・知りたい情報を簡単に手に入れる仕組み

1) 情報提供
・提供には限界制限があることを理解
・時間、期間
・内容
・対応

情報の共有
・知らせたい情報を簡単に発信できる仕組み

市民病院の現状を将来どうするかの問いかけ

人にやさしいまちか？

情報の発信受信が困難な人にどう対応する？

地域での役割・責任を果たす

できることできないことをはっきり伝える(行政から)

地域(主民)でできることは話し合ってやる

①地域団体の情報共有と参加について
現在の行政区を基本にそれぞれの役割を活性化させる。
各役割ごとの委員会を自治区単位で開き、行政との協働を強化

伝えなければならない情報

双方向の話し合い
検討の場をもうける

任せる
任せられる

地域(区)内で情報の共有をどうするか？

公開

情報公開の仕組み

議会傍聴のとき、資料配布回収しない
予算・決算などの説明会

井戸端会議

異年齢の人たちが交流できる機会ある？ない？つくる？

情報井戸端会議少ない、多い？近所と付き合い

3) 活動拠点
簡単手続き
お気軽利用
低料金

3) 「たまり場」づくり
↓
井戸端

テーマを決めた茶話会をやる

市民団体の活動や提案を話し合う場

地元企業商店の意見(商工会)交流

③情報や参加をうまくすすめる手法
小さな単位で繰り返し訓練することで自主的な方策が生まれる。

支援・サポート

3) 参加・活動期限の明確さ
↓
継続活動を期待しない
”一種無責任”
=やっている間は真剣=

活動をつなげるコーディネーター

活動を支援するアドバイザー

1) 活動内容を知ってもらい場づくり⇒参加
・活動発表会
・CATV
・広報ほのか

②市民団体について
自主的な団体であるためとしてバックアップが必要
バックアップの体制には役所の職員だけではなく、一般からの参加が必要

地域自治をすすめるために！

市民会議or市民委員会の設置

市長ブログにあること参考になる

市民自治 実行委員会